

詩編 51 : 3~21

マタイによる福音書 5 : 8

「心の清い人々は幸い」

【招詞】 詩編 51 : 12~14

【讚美歌】 25 「父、子、聖霊に」

【詩編交読】 詩編 130 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 11 「感謝にみちて」

【祈祷】

【聖書】 詩編 51 : 3~21

マタイによる福音書 5 : 8

【説教】 「心の清い人々は幸い」

<心の清さとは？>

イエスさまの「山上の説教」から、毎週、一節ずつ御言葉を聞いています。今日は、「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」という御言葉です。

心の清い人々は、幸いである。心の清い人々は、神を見ることができる。

いったい、「心の清い人々」とは、どういう人のことを言うのでしょうか。清く正しい生活をしている人でしょうか。良いことを沢山してきた人でしょうか。嘘をついたことのない、正直な人のことでしょうか。

この、「清い」と訳されているギリシア語は、「混ざりものがない」とか、「薄められていない」という意味の言葉です。英語だと、「Pure」と訳されたりします。「純粋な」とか、「不純物のない」、という意味です。そういう心の清さを持つ人です。

そして、それは聖書においては、心に神さま以外のものが混じっていない、ということの意味します。まっすぐ、ただ神さまだけを向いている心。純粋に、神さまだけを見つめている心。それが、聖書が語っている「心の清い人」なのです。

そのように、神さまにまっすぐな人、ひたすら神さまだけを見つめる人、そんな「心の清さ」を持つ人だけが、神さまを見ることが出来る、というのです。

ですから、罪に汚れている人、神さま以外の不純物で心がいっぱいになっている人は、神さまを見ることは出来ません。他のものに目を奪われているから、ちゃんと神さまを見ることが出来ないのです。

でも何より、罪に汚れている者は、そもそも、完全に聖いお方である神さまの御前に出ることには出来ません。正しい神さまの御前に、罪に汚れている者が立とうものなら、神さまの怒りに触れ、審きを受け、滅ぼされてしまうからです。

罪の汚れの中にある者は、正しい、義なるお方である神さまを恐れ、神さまの御顔を避けなければなりません。

旧約聖書の出エジプト記にも、神さまがこのように語られているところがあります(33:20)。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

神さまの方を向いていないわたしたち人間は、神さまに背く者であり、神さまの御心に逆らう罪人であり、神さまの御顔を見たら、死ぬと言われているのです。

それでは、いったい誰が、神さまを見る事が出来るのでしょうか。わたしたちに染みついてしまった罪の汚れを、どうやって落として、清くなれば良いのでしょうか。

汚れた俗世から離れて、修行をして、聖なる生活をすれば良いのでしょうか。何か徳を積みれば良いのでしょうか。

でも、そのようなことで、わたしたちの不純物が取り除かれて、心が清くなることはありません。

どんなに神さまだけを向こうとしても、わたしたちはすぐに自分の心に従って、自分の好きな方へ向き直ってしまう。どんなに神さまだけを見つめようとしても、わたしたちの目は暗く曇り、何かに覆われ、実際には何も見ることができない。どんなに神さまに喜ばれることをしようとしても、知らない間に自分を喜ばせようとしている。

わたしたちは、この罪の汚れを、どうやっても、自分で完全に洗い清めることは出来ないのです。実際に、わたしたちは、心の清さを求めれば求めるほど、清くない自分の罪の姿。清くなれない自分の弱さを、とことん知らされていくのではないのでしょうか。

### <悔い改め>

さて、そのような、自分ではどうしようもない罪の自覚を、旧約聖書の詩編 51 編がよく語っています。これは「悔い改めの詩編」と呼ばれているものです。

1~2 節にはこの詩編の説明が書かれていますが、そこにはこうありました。

「指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。」

これは、イスラエルの王であるダビデが、部下ウリヤの妻であるバト・シェバと通じて、さらにウリヤを戦場の最前線に送って戦死させたことを、預言者ナタンに叱責された時の詩だとされています。ダビデは、神さまの御前に自分の罪を認め、深く悔い改めています。

そして、自分では償いようもない、清めようもない、どうしようもない罪の中で、ただ神さまの憐れみを乞い求めるのです。3~4 節にはこうあります。

「神よ、わたしを憐れんでください／御慈しみをもって。深い御憐れみをもって／背きの罪をぬぐってください。わたしの咎をことごとく洗い／罪から清めてください。」

ダビデは、人の妻を奪い、ウリヤを殺すという罪を犯しておいて、神さまに「あなたが、わたしの背きの罪を拭ってください。あなたが、わたしの咎をことごとく洗い、あなたが、わたしを罪から清めてください」と祈り求めます。

そんな虫のよい願いがあるのでしょうか。

しかしダビデは、神さまの御心に背いた罪によって、自分が、もはや自分の力ではどうやっても拭い切れないほどに、汚れ切ってしまうているということ。神さまの御前で、もはやどのような償いをしてしても全く役に立たないほどの、大変な罪を犯してしまったことを、自覚しているのです。

そうであるならば、もうダビデには、神さまの憐れみを求める他、道はありません。

そして、わたしたちもまた、ダビデと同じなのです。

いや、そんなひどい罪を犯したことはない、と言われるのでしょうか。確かに、人妻を寝取ったり、邪魔な人を死なせたりは、していないかも知れません。

しかし、神さまは、わたしたちの心までをご覧になる方です。そうであるならば、だれが、心でも罪を犯したことがない、などと言えるのでしょうか。

以前まで、主日礼拝では『ハイデルベルク信仰問答』から、「十戒」についての御言葉を聞いてきました。

そこで、例えば「殺してはならない」との戒めは、ただ、人を殺さなければ良い、というものではない、ということが教えられていました。それは、心の中の殺人をも、してはならない、という戒めなのです。

わたしたちが、「あいつなんかいなくなればいいのに」とか、「あの人はいらぬ」とか、そんな殺人の根っことなる心の思いを持つこと。それも、殺人と同じだ、と言われていたのです。

わたしたちは、誰しものが、深刻な罪に捕らわれてしまっています。そして誰一人、自分で罪から逃れることは出来ないし、また犯してしまった自分の罪を、自分で償うことも、清めることも、拭い去ることも出来ないのです。

わたしたちもまた、神さまの御前で、神さまの憐れみにすがるしかないのです。

そして、神さまに、わたしの背きの罪をぬぐっていただき。神さまに、わたしの咎をことごとく洗っていただき。神さまに、罪から清めていただくしかないのです。

そしてダビデは、詩編 51 : 12 でこのように語っていました。

「神よ、わたしの内に清い心を創造し／新しく確かな霊を授けてください。」

わたしたちは、もはや自分のうちに、清い心を持ち得ません。

わたしたちは、神さまによって、まったく新しく清い心を造っていただき、まったく新しい霊を授けていただくしか、もはや清い心を持つ方法はないのです。

### <イエスさま>

そして、そのことを実現するためにこそ、神さまは、わたしたちのところへ、神の御子イエスさまを、遣わして下さったのです。

わたしたちは、自分の罪のために、染みついてしまった汚れのために、神さまのおられる天へと上って行くことも、神さまの御前に立つことも、神さまを見ることも出来ません。

しかし、罪人のわたしたちを、それでも愛し、憐れんでくださる神さまは。御自分の方から、わたしたちの許へ低く降って来てくださり、御子なるイエスさまにおいて、御自分のことを、わたしたちに現わして下さったのです。

わたしたちは、神さまを見ることは出来ません。しかし神さまは、御自分の方から、わたしたちに、御自分を見せてくださることがお出来になります。

ですからわたしたちは、罪人であるにも関わらず、低く降り、まことの人となられた神の御子イエスさまにおいて、まことの神を見ることが出来るのです。

わたしたちは、イエスさまにおいて、まことの神を見ます。イエスさまのご生涯において、神さまの愛を見ます。イエスさまの十字架において、神さまの罪の赦しを見ます。イエスさまの復活において、神さまが与えてくださる新しい命を見ます。

…イエスさまは、父なる神さまの御心の通り、わたしたちの背きの罪を、御自分の十字架の上に、すべて担って下さいました。そして、罪人であるわたしたちは、イエスさまの十字架と共に死んだこととされました。そのようにして、イエスさまは、御自分の血によって、わたしたちの咎を洗い流して下さったのです。

そして神さまは、この十字架の御業を成し遂げられたイエスさまを、死者の中から復活させられました。

そのことによって神さまは、罪に死んだわたしたちにも、新しい命が与えられ、神さまと共に生きる、新しい道が拓かれたことを、明らかにして下さったのです。

このようにして、この世に降って来て下さった御子イエスさまが、わたしたちに神さまを現わし、神さまの救いを実現し、神さまの恵みを与えて下さったのです。

今や、わたしたちが見つめるべきは、この十字架と復活のイエスさまです。

この方が、わたしの罪を清めて下さった。この方が、わたしを神さまの御前に立つ者として下さった。この方が、わたしの内に清い心を造り出し、新しく確かな霊を授け、神さまに向かって生きる者として下さった。

…このことを知り、悔い改めの内に、イエスさまを見つめて従う者こそが、心の清い者なのです。そして、その人は、まさに、神を見ているのです。

だから、心の清い人々は、まことに幸いなのです。

### <神さまの御前で歩む>

…わたしたちは、自分で清くなろうとして、清くなれるものではありません。

イエスさまの十字架と復活によって、罪を赦され、神さまに向かって生きる、清い心を与えられたから、心の清い者と呼ばれるのです。

それなのに、なお、わたしたちの心には、不純物が混ざることがあるかも知れません。神さまだけを見つめずに、眼差しを逸らしてしまうことがあるかも知れません。

でも、わたしたちは、イエスさまの十字架の御業のゆえに。その完全な罪の贖いのゆえに。もはや、罪をぬぐわれた者として、咎を洗われた者として、心の清い者として、神さまの御前に、いつでも出ることが許されているのです。

今のわたしたちも、清い心のままに歩めているわけではないはずです。

清い心を与えられているのに、新たな霊を与えられているのに、罪を抱えつつ、心に不純物を抱えつつ、今日もここに集ってきたのではないのでしょうか。

だからわたしたちは、神さまの御前に出る時は、いつも悔い改めをもって、御前になければなりません。

しかし、それでも憐み深い神さまは、イエスさまの十字架のゆえに、赦しをもって、わたしたちを清い者として、喜んで迎え入れてくださいます。

そして、聖霊によって、またわたしたちを新しくしてくださり、神さまを見つめて歩む幸いの内に、新しい一週間の歩みへと送り出してくださるのです。

しかしなお、そのような幸いに与りながらも。時にわたしたちは、何度も繰り返してしまう自分の罪深さに、目の前の悲惨な現実、この世のあまりの汚れに、日々の中で、人生の中で、神さまを見失うような思いになることが、あるかも知れません。

神さまはどこにおられるのか。わたしたちの汚れから、罪から、もはや目を背けられたのか。わたしたちは見捨てられてしまったのか。そう感じることもあるかも知れません。

でも、わたしたちが神さまを見失っても、神さまがわたしたちを見失われること、見捨てられることは、決してありません。

わたしたちの代わりに、わたしたちの苦しみと、罪と、死を担われたイエスさまは、わたしたちのすべての苦しみも、悲しみも、嘆きも、すべてご存知であります。

わたしたちが、苦しみや、悲しみや、罪の悲惨のどん底にあると感じる時。実はそれよりももっと深く、もっと暗い、嘆きの谷の底に。わたしたちよりもずっと低いところに。十字架のイエスさまが立っておられるのを、わたしたちは見るのです。

この方が、誰よりも、最もわたしの近くにおられるのです。この方が、わたしを担ってくださり、ずっと共にいてくださるのです。

わたしたちは、どこにあっても、どのような状況でも、必ず、共にいてくださる、救い主イエスさまを見出すことが出来るのです。

そして、このイエスさまは、わたしたちの罪を清め、死に勝利し、復活なさったお方なのですから。わたしたちは、イエスさまにおいて、必ず、忍耐する力を、起き上がる力を、そして、慰めを、励ましを、希望を、与えられていきます。

そうして、わたしたちはイエスさまにおいて、いよいよ、神さまを見るようになる。いよいよ、神さまの恵みを味わっていく。いよいよ、神さまを求めて、神さまに依り頼んで、その清さに生きる者とされていくのです。

#### <顔と顔とを>

このように、イエスさまを一心に見つめて歩む人が、心の清い人々と呼ばれるのです。

しかし、今わたしたちは、この肉体の目で、イエスさまを、神さまを、見つめているわけではありません。

わたしたちが地上を歩んでいる間は、わたしたちは聖霊によって、御子イエスさまを見つめています。わたしたちは今、この地上を生きる肉体の目ではなくて、聖霊によって与えられた信仰の目で、神さまを見つめているのです。

しかし、やがて、わたしたちが、神さまを直接、イエスさまを直接、顔と顔とを合わせて見つめる日がやってくると、聖書は語っています。

コリントの信徒への手紙一 13 : 12 (新 317 頁) には、こうあります。

「わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。」

今は、わたしたちは、神さまのことを、救いのことを、鏡におぼろに映ったようにしか見ることが出来ません。しかし、その時には。つまり、天に上げられたイエスさまが再び来られる日。この世の終わりの日。神さまの御国が来て、わたしたちの救いが完成する日には。

わたしたちは、神さまを、イエスさまを、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしが神にはっきり知られているように、わたしたちも神をはっきり知ることになる。そう約束されています。

この目で、目の前で、神さまとお会いする。罪と死がすべて過ぎ去り、神さまのご支配にすっかり覆われた栄光の中で。恵みの中で。顔と顔を合わせて、神さまと相対するというのです。

それは、決して恐ろしい時ではありません。なぜなら、わたしを愛し、憐れみ、罪を清め、ずっと人生の日々を、わたしを担って共に歩んでくださった方を、はっきりとこの目で見るのですから。

わたしたちは、すべての覆いが取り払われて、すべての闇が追い払われて、神さまのご栄光を、イエスさまの深い愛の眼差しを、その柔和な御顔を、その勝利の御姿を、この目で直接見る日が来ることを、心から待ち望んでいるのです。

詩編にも、このような歌があります（17：15）。

「わたしは正しさを認められ、御顔を仰ぎ望み／目覚めるときには御姿を拝して／満ち足りることができるでしょう。」

…イエスさまは、従ってきた人々に、ここにいるわたしたちに、言われました。

「心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。」

このイエスさまご自身が、低く降ってわたしたちのところに来られ、わたしたちの咎を洗い、わたしたちの内に清い心を造ってくださるお方です。

そして、こう語ってくださるイエスさまご自身こそ、わたしたちの神であります。

ですから、このイエスさまに出会い、語りかけられ、御許に招かれたわたしたちは。今ここで、このイエスさまの御言葉を聞いているわたしたちは、まことに幸いです。

わたしたちは、神を見ているのです。そして、やがて、顔と顔とを合わせて、神を見るのです。

#### 【お祈り】

天の父なる神さま

御前に出ることが出来ない、汚れた罪深い私たちを、それでも愛してくださり、憐れんでくださり、イエスさまの十字架に血によって、清めてくださったことを感謝いたします。

どうか、わたしたちの内に、あなたを一心に見つめる、清い心を造ってください。

どうか、わたしたちを、聖霊によって新しくし、悔い改めと感謝をもって、御前に立つ者としてください。

そして日々の歩みにおいて、共にいてくださるイエスさまを見つめ、赦されつつ、慰められつつ、励まされつつ、いつかこの目で神さまと会い見える日を心から待ち望みつつ、あなたに喜ばれる清い心で、歩んでいく者とならせてください。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 3 4 8 「神の息よ」

【信仰告白】 ニカリア信条

【十戒】

【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 2 6 「グロリア、グロリア、グロリア」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン